

# HP Functional Testing Concurrent License Server

Windows® オペレーティング・システム 向け

ソフトウェア・バージョン: 12.01

## インストール・ガイド

ドキュメント・リリース日: 2014 年 7 月

ソフトウェア・リリース日: 2014 年 7 月



## ご注意

### 保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© Copyright 1992 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

### 商標について

Adobe®およびAcrobat®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Google(TM) および Google Maps(TM) は Google Inc. の商標です。

Intel®およびPentium®は、Intel Coporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows®XPおよびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行うことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

[http://support.openview.hp.com/access\\_level.jsp](http://support.openview.hp.com/access_level.jsp)

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやTILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは

<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp> です。

# HP Functional Testing Concurrent License Server によるこそ

『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』によるこそ

『HP Functional Testing Concurrent License Server インストール・ガイド』では、HP Functional Testing Concurrent License Server のインストールと保守を行う際に必要な情報が提供されます。

## 対象読者

このガイドは、HP Functional Testing Concurrent License Server のインストール、セットアップ、保守を行う必要があるユーザを対象としています。本書の読者は、システム管理についてある程度の知識を持っている必要があります。

本書の内容

[「インストールの前に」\(4ページ\)](#)

[「コンカレント・ライセンスを使用した Concurrent License Server のセットアップ」\(5ページ\)](#)

[「Concurrent License Server に関するヒント」\(16ページ\)](#)

[「Concurrent License Server エラー・コード」\(19ページ\)](#)

[「コンカレント・ライセンス・サーバ・ユーティリティ」\(21ページ\)](#)

[「Concurrent License Server のアンインストール」\(31ページ\)](#)

## 第1章: インストールの前に

HP Functional Testing Concurrent License Server を正常にインストールして実行するためには、次に示す**最小システム要件**を満たす必要があります。ただし、最小要件より高い性能や新しい技術に対応したシステム構成を使用する方が、高いパフォーマンスを発揮できます。

コンカレント・ライセンス・サーバのサポートされるオペレーティング・システムの一覧は、インストールDVDのルート・フォルダにある『HP Unified Functional Testing 使用可能製品 マトリクス』を参照してください。最新の使用可能製品 マトリクスは「[HP サポート・マトリクス](#)」ページ (要 HP passport 登録) から入手できます。

コンピュータおよびプロセッサ	550 MHz 以上の Pentium III マイクロプロセッサを搭載した IBM-PC またはその互換機
オペレーティング・システム	Windows 2000 以降
メモリ	256 MB 以上の RAM
ハード・ディスクの空き容量	10 MB の空き容量
アクセサリ	DVD ドライブ (ローカル・ドライブからインストールする場合)
プロトコル	TCP/IP

注: この項の内容は、本リリース時における最新情報です。サポートされるシステム構成に関する最新情報については、[http://www.hp.com/go/uft\\_sysreq](http://www.hp.com/go/uft_sysreq) ページを参照してください。

## 第2章: コンカレント・ライセンスを使用した Concurrent License Server のセットアップ

ライセンスには2種類あります。シート・ライセンスとコンカレント・ライセンスです。シート・ライセンスはコンピュータ単位のライセンスです。コンカレント・ライセンスは、HP Functional Testing Concurrent License Serverを持っている場合にのみ使用可能なセッションごとのライセンスです。サーバにアクセスできれば、コンカレント・ライセンスを使用できます。本書では、HP Functional Testing Concurrent License Server とコンカレント・ライセンス・キーのインストール方法について説明します。

また、コンカレント・ライセンス・オプションを使って、製品を実行する各コンピュータに当該製品をインストールする必要もあります。コンカレント・ライセンスをインストールする場合、任意の数のコンピュータに製品のクライアントをインストールできます。ただし、HP Functional Testing Concurrent License Server は、コンカレント・ライセンス・キーに基づいて、同時実行できる製品のコピーの数を制限します。同時に実行できるコピーの数を増やすには、HP から追加ライセンスを購入します。

UFT からConcurrent License Serverに接続するには、有効なライセンス・キーがコンカレント・ライセンス・サーバにインストールされている必要があります。HP Functional Testing Concurrent License Server では、体験版ライセンス・オプションを使用できません。

### 本章の内容

Concurrent License Server のインストール .....	6
Concurrent License Server のアップグレード .....	8
コンカレント・ライセンス・キーの申請 .....	9
コンカレント・ライセンス・キーのインストール .....	11
冗長ライセンス・サーバ .....	14
Concurrent License Server の別のネットワーク・コンピュータへの移転 .....	15

# Concurrent License Server のインストール

HP Functional Testing Concurrent License Server をインストールすると Sentinel RMS License Manager バージョン 8.4.0 がインストールされます。Sentinel RMS License Manager Server の詳細については、UFT または Service Test のインストール DVD の LicenseServer\server\SysAdminHelp フォルダに格納されている『Sentinel RMS License Manager System Administrator's Help』を参照してください。(ヘルプにアクセスするには、default.html ファイルを開きます)。

注: コンピュータに以前のバージョンのコンカレント・ライセンス・サーバが既にインストールされている場合、決まった手順に従ってコンカレント・ライセンスをアップグレードする必要があります。詳細については、「[Concurrent License Server のアップグレード](#)」(8ページ)を参照してください。

## 前提条件

- ライセンス・サーバをインストールするには、管理者特権が必要です。
- ライセンス・サーバは TCP/IP がインストールされているコンピュータにインストールする必要があります。

TCP/IP がインストール済みで正しく機能していることを確認するには、ライセンス・サーバをインストールするコンピュータがネットワーク上の別のコンピュータから識別できることを確認します。

- a. 別のネットワーク・コンピュータで[スタート]>[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
- b. [名前]ボックスで、ping<ライセンス・サーバをインストールするコンピュータの名前>を入力して[OK]をクリックします。

1 台目のコンピュータでネットワーク上の 2 台目のコンピュータが識別されると、MS-DOS ウィンドウが開き、4 つの成功メッセージが表示されます。1 台目のコンピュータでネットワーク上の 2 台目のコンピュータが識別されなければ、MS-DOS ウィンドウは開きますが、成功メッセージは表示されません。

インストールしたコンカレント・ライセンス・サーバは、UFT を使用する際にはクライアント・コンピュータで常に稼動している必要があります。

**日本語版のコンカレント・ライセンス・サーバをインストールするには、次の手順を実行します。**

1. UFT セットアップ・ウィンドウで[ライセンス サーバのセットアップ]をクリックします。Concurrent License Server のインストール・ウィンドウが開きます。
2. [コンカレント ライセンス サーバ]ウィンドウで、**HP Functional Testing Concurrent License Server** をクリックします。

Sentinel RMS License Manager Server のセットアップ・プログラムが起動し、Sentinel RMS License Manager の[Welcome]画面が表示されます。

3. ステップの指示に従ってインストール作業を行います。

**注:** システム・ファイアウォールが有効になっているオペレーティング・システム (Windows XP Service Pack 2 など) にライセンス・サーバをインストールしようすると、[**System Firewall Settings Need To Be Modified**]画面が表示され、コンピュータのファイアウォール設定を変更する必要がある旨が通知されます。

この画面で、[**Unblock the system firewall for the Sentinel RMS License Manager**]チェック・ボックスをオンにして、コンカレント・ライセンス・サーバとネットワーク・クライアントとの間の通信を有効にします。このチェック・ボックスをオフにすると、コンカレント・ライセンスを使用して UFT を実行しているコンピュータは、コンカレント・ライセンス・サーバにアクセスできなくなります。

コンカレント・ライセンス・サーバをインストールした後、UFT を使用する前にコンカレント・サーバ・ライセンス・キーを申請し、インストールする必要があります。コンカレント・ライセンス・サーバの体験版ライセンスはありません。

# Concurrent License Server のアップグレード

UFT は、コンカレント・ライセンス・サーバとして、Sentinel RMS License Manager バージョン 8.4.0 をサポートしています。コンカレント・ライセンスを持つ UFT をアップグレードする場合、コンカレント・ライセンス・サーバもアップグレードする必要があります。

コンカレント・ライセンス・サーバをアップグレードするには、管理者特権が必要です。

コンカレント・ライセンス・サーバを更新するには、次の手順を実行します。

1. Sentinel LM service を手動で停止します。[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択します。[サービス] ダイアログ・ボックスで [Sentinel LM License Manager] を右クリックし、[停止] を選択します。
2. Iservrc ファイルのバックアップを保存します。Iservrc ファイルは、Sentinel LM License Manager サーバが現在インストールされているフォルダ (例 : %CommonProgramFiles%\SafeNet Sentinel\ LM License Manager Server\WinNT) または Iservrc 環境変数に指定されている場所にあります。

**ヒント:** Iservrc 環境変数のパスを確認するには、[マイコンピュータ] を右クリックして [プロパティ] を選択します。[システムのプロパティ] ダイアログ・ボックスで [詳細設定] タブを選択して、[環境変数] をクリックします。Iservrc 変数の [環境変数] ウィンドウの [ユーザー] の **ユーザー環境変数** ボックスにパスが表示されます。例 : %CommonProgramFiles%\HP\License Manager\Iservrc

3. Sentinel RMS License Manager バージョン 8.4.0 をライセンス・サーバ・コンピュータにインストールします。ライセンス・サーバをインストールすると、ライセンス・サーバが新しいバージョンにアップグレードされます。詳細については、[「Concurrent License Server のインストール」\(6ページ\)](#) を参照してください。
4. インストール後、製品がインストールされているかどうかに応じて、バックアップをとった Iservrc ファイルを次の場所にコピーします。
  - 製品がインストールされている場合、このファイルを Iservrc 環境変数によって指定した場所にコピーします。
  - 製品がインストールされていない場合、Iservnt.exe ファイルと同じフォルダに Iservrc ファイルをコピーします (例 : %CommonProgramFiles%\SafeNet Sentinel\ RMS License Manager Server\WinNT\Iservnt.exe)。

**ヒント:** Iservnt.exe の場所を確認するには、[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス] を選択します。[サービス] ダイアログ・ボックスで [Sentinel RMS License Manager] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。[実行ファイルのパス] ボックスに Iservnt.exe のパスが表示されます。

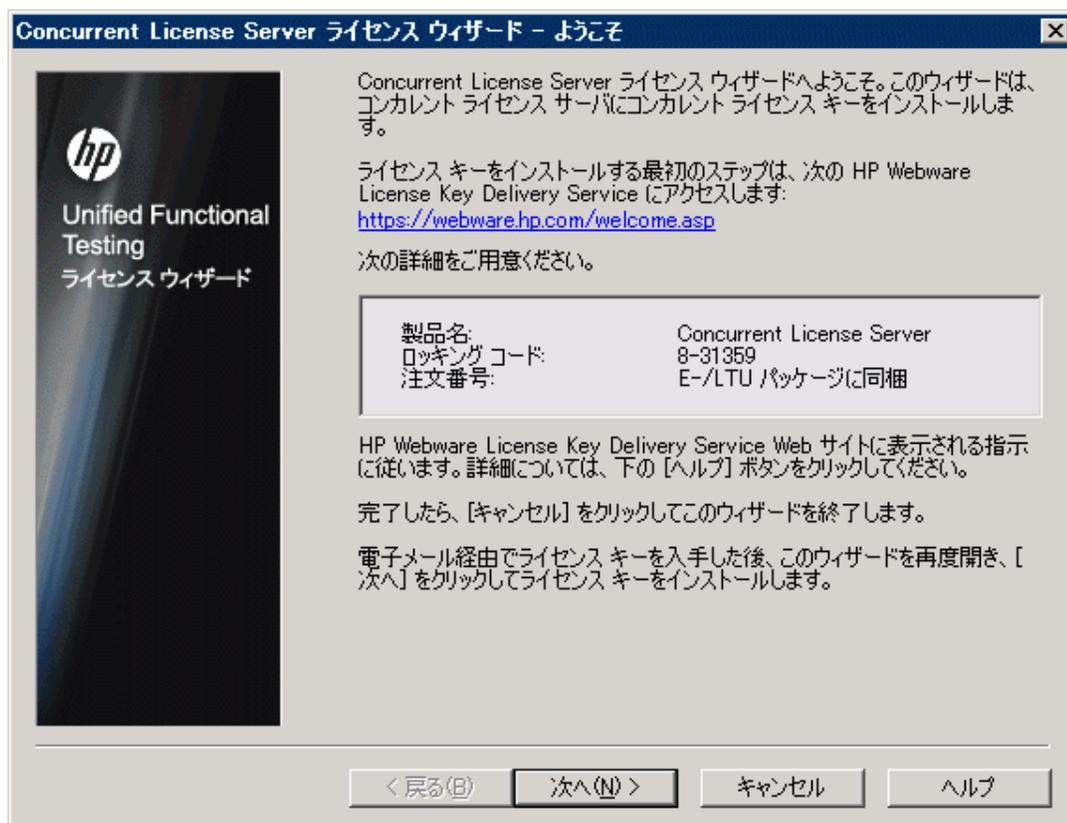
## コンカレント・ライセンス・キーの申請

コンカレント・ライセンス・サーバのインストールが完了したら、コンカレント・ライセンス・サーバのライセンスのインストール・プログラムを実行して、HP にライセンス・キーを申請する必要があります。コンカレント・ライセンス・サーバのライセンス・コードのインストール・プログラムは、コンカレント・ライセンス・サーバをインストールしたコンピュータで実行します。

コンカレント・ライセンス・キーを申請するには、次の手順を実行します。

1. UFT セットアップ・ウィンドウで[ライセンス サーバのセットアップ]をクリックします。Concurrent License Server のインストール・ウィンドウが開きます。
2. [コンカレント ライセンス サーバ]ウィンドウで、[コンカレント ライセンス キーのインストール]をクリックします。

Concurrent License Serverのライセンス・コードのインストール・プログラムが起動して[ようこそ]画面が開き、お使いのコンピュータのロッキング・コードとライセンスの種類が表示されます。



3. **HP Webware License Key Delivery Service** にライセンス・キーを申請するには、[Concurrent License Server ライセンス ウィザード - ようこそ]画面のリンクをクリックします。「[HP Webware License Key Delivery Service へのライセンス・キーの申請](#)」(10ページ)に示す指示に従ってください。

4. ライセンス・キーをすでに持っている場合は、「[コンカレント・ライセンス・キーのインストール](#)」の項のステップ4に進みます。

## HP Webware License Key Delivery Service へのライセンス・キーの申請

HP Software Licensing Portal は、ライセンス・キーの申請をお手伝いします。

ポータルさまざまな領域 (チュートリアルやデモ方法など) の詳細については、Web ページの左側にある[\[リソース\]](#)の下のリンクを参照してください。

『HP Software License Activation Quick Start Guide』の手順に従って、ライセンス・キーを申請します。このガイドは、HP Software Licensing Portal の[\[リソース\]](#)領域から入手できます。

**[Cancel]**をクリックして、恒久ライセンス証明書が電子メールで届くまでお待ちください。ライセンス・キーが届いたら、「[コンカレント・ライセンス・キーのインストール](#)」(11ページ)の手順を実行します。

# コンカレント・ライセンス・キーのインストール

HP からライセンス・キーを受け取ったら、Concurrent License Serverのライセンス・キーのインストール・プログラムを再度実行してキーをインストールする必要があります。ライセンス・キーは、恒久ライセンス証明書が記載された電子メールに添付されている .dat ファイルに含まれています。コンカレント・ライセンス・キーは、コンカレント・ライセンス・サーバをインストールしたコンピュータにインストールする必要があります。

## 注意:

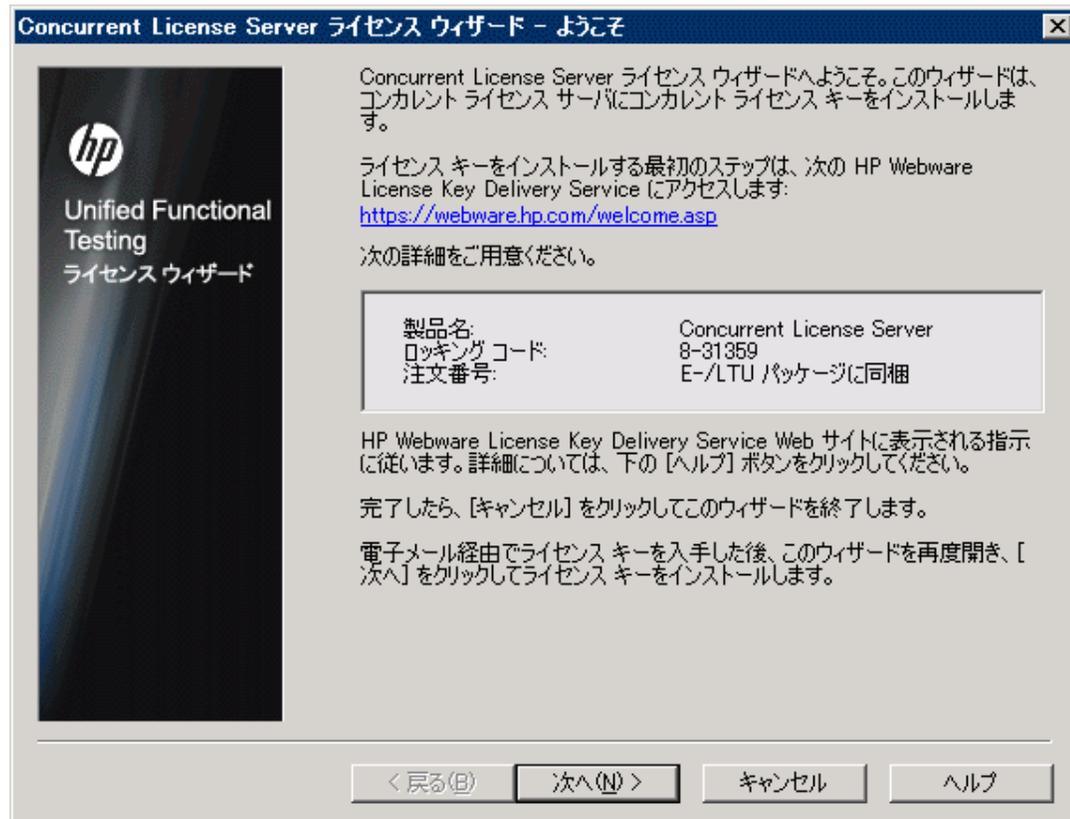
- コンカレント・ライセンス・キーは、リモートからインストールできません (たとえば、Symantec pcAnywhere, Citrix, Terminal Server を使用してのインストール)。
- コンカレント・ライセンス・キーをインストールした後は、コンピュータの日付や時刻を変更しないでください。これらの変更を行うと、**クロック不正変更**によってライセンス情報がロックされ、ライセンスを使用できません。

コンカレント・ライセンス・キーをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Concurrent License Server セットアップ・プログラムを再度実行します。
2. Unified Functional Testing セットアップ・ウィンドウで[**ライセンス サーバのセットアップ**]を選択します。Functional Testing Concurrent License Server セットアップ・スクリーンが開きます。

3. Functional Testing Concurrent License Server で、[コンカレントライセンスのインストール]をクリックします。

Concurrent License Serverのライセンス・コードのインストール・プログラムが起動して[ようこそ]画面が開き、お使いのコンピュータのロッキング・コードとライセンスの種類が表示されます。



[次へ]をクリックしてライセンスのインストールを開始します。[ライセンス キー]画面が開きます。

**注:** ライセンス・キーは、HP に送られたロッキング・コードを持つコンピュータでのみ有効になります。

4. [ライセンスのインストール-ライセンス キー]画面でライセンス・キーを入力し、[次へ]をクリックします。[インストールのサマリ]画面が開きます。
5. [インストールのサマリ]画面で、インストールの詳細を確認し、[次へ]をクリックしてライセンスをインストールします。

ライセンスがインストールされると、完了画面が表示されます。[完了]をクリックし、コンカレント・ライセンス・サーバを再起動してライセンスの使用を開始します。

**注:** ライセンスを正常にインストールできなかった場合は、その原因を示すメッセージが表示

されます。たとえば、ライセンス・キーを正しく入力しなかった場合、インストールは正常に行われません。

# 冗長ライセンス・サーバ

冗長ライセンス・サーバはフェイルオーバーを実現し、メイン・ライセンス・サーバに障害が発生した場合に、ダウンタイムが発生したりライセンスが失われたりすることなく、残りのサーバがライセンスの可用性を維持できるようにします。冗長ライセンス・サーバ機能は、大規模なネットワーク環境を持ち、ライセンス・サーバのバックアップを希望する企業にとって有用です。

冗長ライセンス・サーバを使用する場合、プライマリ・ライセンス・サーバのコンカレント・ライセンス・キーを申請し、そのライセンス・キーがすべてのバックアップ・ライセンス・サーバで使用されます。

冗長ライセンス・サーバのデプロイの詳細については、インストールDVDの \\LicenseServer\server\SysAdminHelp\Default.htm からアクセスできる『Sentinel RMS Kit System Administrator's Help』で「Setting up Redundant License Servers」の項を参照してください

## 注:

- 冗長ライセンス・サーバを使用するには、冗長サーバが少なくとも3台必要で、最大11台配置できます。
- 冗長サーバのデプロイ時には、**多数決方式**に従う必要があります。**多数決方式**とは、冗長ライセンス・サーバの過半数が稼働されている場合のみ、ライセンスの申請が処理されることを意味します。

たとえば、冗長ライセンス・サーバを10台定義しており、多数決方式に従っている場合、ライセンスの申請が処理されるには、少なくとも6台の冗長ライセンス・サーバが稼働中である必要があります。

詳細については、インストールDVDの \\LicenseServer\server\SysAdminHelp\Default.htm からアクセスできる『Sentinel RMS Kit System Administrator's Help』で「Majority Rule」を確認してください。

冗長ライセンス・サーバ・キーを申請するには、次の手順を実行します。

1. Webware HP License Key Delivery Service ([www.webware.hp.com](http://www.webware.hp.com)) にアクセスします。
2. [Support] セクションで、[Contact license delivery center] をクリックします。
3. 記載されている地域のライセンス提供センターのいずれかに連絡し、フェイルオーバーホット・スタンバイライセンスを申請します。
4. サポート・チームのメンバーから詳細の問い合わせがあります。使用するすべてのバックアップ・サーバのロッキング・コードを提供するよう要求されます。

# Concurrent License Server の別のネットワーク・コンピュータへの移転

HP Functional Testing Concurrent License Server を、別のネットワーク・コンピュータに移転できません。

ライセンス・サーバを別のコンピュータに移転するには、次の手順を実行します。

1. 「[Concurrent License Server のインストール](#)」(6ページ)の説明に従って、UFT インストール・プログラムを実行し、新たなコンピュータにコンカレント・ライセンス・サーバをインストールします。
2. 「[コンカレント・ライセンス・キーの申請](#)」(9ページ)の説明に従って、UFT インストール・プログラムを実行し、コンカレント・ライセンス・キーを申請します。申請には、既存のライセンス・サーバを新たなコンピュータに移転しようとしている旨を記載します。
3. 新しいコンカレント・ライセンス・キーを受け取って新たなネットワーク・コンピュータにインストールしたら、前のネットワーク・コンピュータからコンカレント・ライセンス・サーバをアンインストールします。

# 第3章: Concurrent License Server に関するヒント

本章では、コンカレント・ライセンス・サーバに関するヒントとトラブルシューティング情報を提供します。また、コンカレント・ライセンス・サーバの停止および再起動方法についても説明します。

Concurrent License Server を使用する際は、以下のヒントを参考にしてください。

- 「一般的なヒント」(16ページ)
- 「Concurrent License Server の停止と再起動」(16ページ)
- 「ロッキング・コード」(17ページ)
- 「既知の問題とその解決法」(17ページ)

## 一般的なヒント

UFT が動作しているクライアント・コンピュータが複数のドメインに分散している場合、ライセンス・サーバを各ドメインにインストールする必要があります。

## Concurrent License Server の停止と再起動

ライセンス・サーバをリセットする場合は、コンピュータを再起動することをお勧めします。また、次の手順でコンピュータを再起動せずにライセンス・サーバの停止と再起動を行うこともできます。

注: コンカレント・ライセンス・サーバは、ホスト・コンピュータが起動すると自動的に立ち上がります。

ライセンス・サーバを停止して再起動するには、次の手順を実行します。

1. [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] をクリックします。
2. [管理ツール] をダブルクリックしてから [サービス] をダブルクリックします。[サービス] ダイアログ・ボックスが開きます。
3. [サービス (ローカル)] リストで [Sentinel RMS License Manager] を選択し、[サービスの停止]  をクリックします。
4. ライセンス・サーバを再起動するには、[Sentinel RMS License Manager] を反転表示させ、[サービスの開始]  をクリックします。

ヒント:

ライセンス・サーバを停止して再起動するには、[Sentinel RMS License Manager] を反転表示させ、[サービスの再起動]  をクリックします。

また、LSRVDOWN ユーティリティを使用してライセンス・サーバをシャットダウンすることもできます。詳細については、[24 ページ](#)を参照してください。

## ロッキング・コード

ロッキング・コードはライセンス・サーバまたはシート・ライセンス・ホストが生成する一意の識別番号です。どのコンピュータにもそれぞれ固有のロッキング・コードがあります。ロッキング・コードはメンテナンス番号と組み合わせて、サーバ・コンピュータのライセンス・キーを生成するのに使われます。あるコンピュータのロッキング・コードに基づいて生成されたライセンス・キーを別のコンピュータで使うことはできません。

## 既知の問題とその解決法

問題	解決法
コンカレント・ライセンス・サーバが UFT または Service Test のクライアントと異なるドメインやサブネットにインストールされている。	ドメイン間で UDP ポート 5093 を開きます。UFT または Service Test のクライアント・コンピュータの LSHOST パラメータまたは LSFORCEHOST パラメータを設定します。詳細については、 <a href="#">「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定」(27 ページ)</a> を参照してください。  接続を確認するには、Windows コマンド・ラインから ping -a を実行します。  成功すると、コマンド・ラインでは次のように表示されます。Reply from <サーバの IP アドレス>: <バイト数> <時間> .
コンカレント・ライセンス・サーバを Novell または Unix コンピュータにインストールしたい。	コンカレント・ライセンス・サーバのソフトは Novell, Unix のいずれもサポートしていません。UFT または Service Test のクライアント・コンピュータごとにシート・ライセンス・キーを生成してください。あるいは、Windows プラットフォームのネットワーク・コンピュータをコンカレント・ライセンス・サーバとして使用してください。
コンカレント・ライセンス・サーバに正しいライセンス・キーがインストールされているのに、UFT または Service Test を起動できない。	自動実行画面からではなく setup.exe ファイルを使って UFT または Service Test をインストールすると、UFT または Service Test は自動的にシート・ライセンス・オプションでインストールされます。UFT または Service Test を起動しようとするとき開くメッセージ・ボックスで、 <a href="#">[ライセンスのインストール]</a> をクリックします。License Installation ユーティリティが起動します。これを使ってライセンスの種類をコンカレント・ライセンス・オプションに変更できます。

問題	解決法
<p>日付を操作するテストなどのために、コンカレント・ライセンス・サーバがインストールされているコンピュータの日付を変更した。そのために、コンカレント・ライセンス・サーバのライセンス・キーがロックされてしまった。</p>	<p>コンピュータの日時を元の値に戻し、HP ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。</p>
<p>コンカレント・ライセンス・キーをネットワーク上の場所からインストールしようとしているが、[ヘルプ] ボタンをクリックしても <b>F1</b> を押してもヘルプにアクセスできない。</p>	<p>ウィザードのユーザ・インタフェースについて説明するヘルプ・トピックは、CHM ファイルとして用意されています。CHM ファイルはネットワーク上の場所からは開けません。</p> <p>ヘルプ・トピックを表示するには、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• &lt;ライセンス・サーバのパス&gt;\help\FTCLS_License.chm にある CHM ファイルをローカル・ドライブにコピーし、このファイルを開いて [ヘルプ] にアクセスします。</li><li>• ヘルプ・トピックを PDF 形式で表示します (&lt;ライセンス・サーバのパス&gt;\UFT_LicSvr.pdf)。</li></ul>

## 第4章: Concurrent License Server エラー・コード

本章では、表示される可能性のあるコンカレント・ライセンス・サーバのエラー・メッセージに関する情報を提供します。

以下は、Concurrent License Server で表示される可能性のあるエラー・コードです。

### エラー 5

**メッセージ:** コンカレント・ライセンス・サーバが停止しています。

**回避策:** [スタート] > [プログラム] > [管理ツール] > [サービス] を選択してください。Sentinel RMS License Manager サービスを見つけて [開始] をクリックします。

ライセンス・サーバが起動しなければ、HP ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

**注:** Windows 8 での Concurrent License Server および Concurrent License Server のツールとファイルへのアクセス方法の詳細については、「[Windows 8 オペレーティングシステムでの Concurrent License Server へのアクセス](#)」(33ページ)を参照してください。

### エラー 19: ライセンス・コードをインストールできません

エラー 19 は次の状況で発生します。

- 「NO-NET」上のライセンス・サーバにライセンス文字列「Unknown」を追加できなかった。  
シート・ライセンスを指定されたコンピュータで実行中のコンカレント・ライセンス・サーバにインストールすることはできません。
- 「Localhost」上のライセンス・サーバにライセンス文字列「UNKNOWN」を追加できなかった。  
コンカレント・ライセンスを指定されたコンピュータで実行中のコンカレント・ライセンス・サーバにインストールすることはできません。

### エラー 19 が起こる原因

考えられる原因	考えられる解決策
ライセンス・キーがノードロックされており、ライセンス・サーバをインストールしようとしているコンピュータのロッキング・コードと一致していない。	HP ソフトウェア・サポートにお問い合わせ正しいライセンス・キーを再発行してもらいます。

考えられる原因	考えられる解決策
シート・ライセンスをインストールしようとしているけれども、ライセンス・キーがコンカレント・ライセンス用である。	UFTまたは Service Test インストールDVD のLicenseServer\utils フォルダから Program Files\Common Files\HP\License Manager へlsdecode.exe をコピーし、このlsdecode.exe ファイルを実行します。ライセンス・キー情報が表示され、正しいライセンスの種類をインストールしようとしているかどうかを確認できます。
ライセンス・キーの入力に誤りがあった。	UFTまたは Service Test インストールDVD のLicenseServer\utils フォルダから Program Files\Common Files\HP\License Manager へlsdecode.exe をコピーし、このlsdecode.exe ファイルを実行します。ライセンス・キー情報が表示され、正しいライセンス・キーをインストールしようとしているかどうかを確認できます。
ライセンス・キーが既にインストールされている。	<p>lservrc ファイルが存在するかどうか確認します。ファイルの場所は、製品が現在インストールされているかどうかに応じて異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製品がインストールされている場合、ファイルの場所は <b>lservrc</b> 環境変数によって指定されます。</li> </ul> <div data-bbox="630 972 1369 1220" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>ヒント:</b> <b>lservrc</b> 環境変数のパスを確認するには、[マイコンピュータ]を右クリックして[プロパティ]を選択します。[システムのプロパティ]ダイアログ・ボックスで[詳細設定]タブを選択して、[環境変数]をクリックします。[環境変数]ウィンドウの[&lt;ユーザ&gt;のユーザ環境変数]ボックスにパスが表示されます。 例: %CommonProgramFiles%\HP\License Manager\lservrc</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>製品がインストールされていない場合、このファイルは lservnt.exe と同じフォルダに存在します。標準設定では、%CommonProgramFiles%\SafeNet Sentinel\ RMS License Manager Server\WinNT\ です。</li> </ul> <div data-bbox="630 1413 1369 1661" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>ヒント:</b> lservnt.exe のパスを確認するには、[スタート]&gt;[設定]&gt;[コントロールパネル]&gt;[管理ツール]&gt;[サービス]を選択します。[サービス]ダイアログ・ボックスで[Sentinel RMS License Manager]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。[実行ファイルのパス]ボックスにlservnt.exe のパスが表示されます。</p> </div> <p>lservrc ファイルがある場合は、ライセンス・キーは既にインストールされています。ライセンス・サーバを使用することができます。</p>

# 第5章: コンカレント・ライセンス・サーバ・ユーティリティ

本章では、HP Functional Testing Concurrent License Server の付属ユーティリティについて概説します。これらのユーティリティは、UFT のコンカレント・ライセンスの管理を支援します。これらのユーティリティは、HP Functional Testing Concurrent License Server とともに提供される Sentinel License Manager の一部です。

本章で取り上げるユーティリティの詳細については、UFT インストールDVD の LicenseServer\server\SysAdminHelp フォルダにある『Sentinel RMS License Manager System Administrator's Help』を参照してください (ヘルプにアクセスするには、index.html ファイルを開きます)。

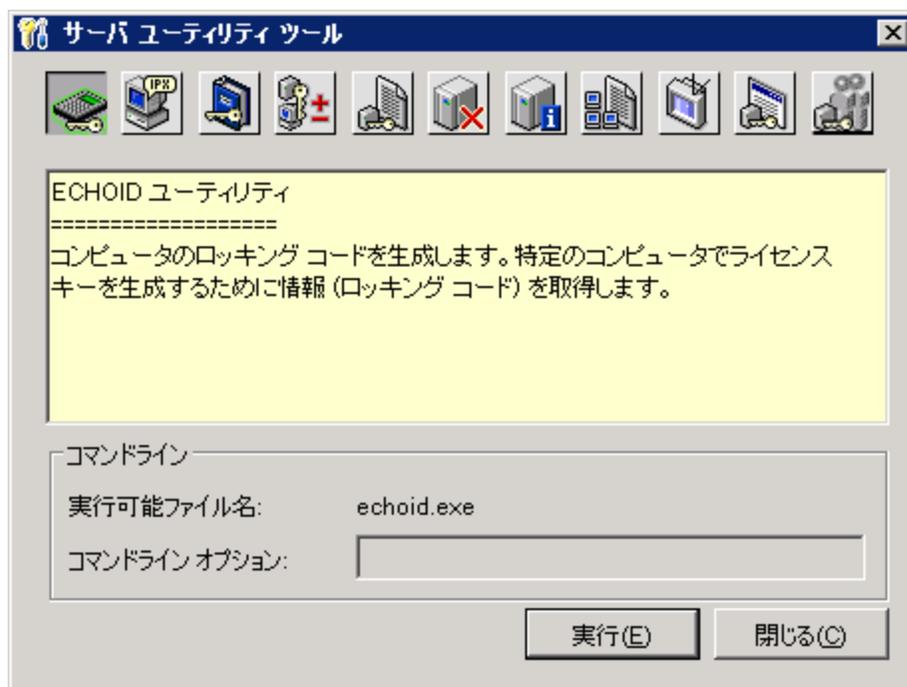
## 本章の内容

概要 .....	22
現在の Concurrent License Server のユーザ .....	26
ライセンス・サーバの表示 .....	26
ライセンス・サーバの監視 .....	26
LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定 .....	27
トラブルシューティングと制限事項 - LSHOST および LSFORCEHOST 変数の使用 .....	30

## 概要

WLMADMIN ユーティリティを使って、コンカレント・ライセンス・サーバを監視できます。また、その他の HP Functional Testing サーバ管理ユーティリティを使えば、お使いのコンカレント・ライセンス・サーバの特定要素の確認と管理ができます。

HP Functional Testing サーバ管理ユーティリティは、Windows ユーザ・インターフェースから UFT または Service Test インストール DVD の LicenseServer\utils フォルダにある SrvUtils.exe を実行することによって起動します。



ユーティリティを実行するには、次の手順を実行します。

サーバ・ユーティリティ・ツールで実行するユーティリティを選択し、[実行]をクリックします。

次の表に、HP Functional Testing ライセンス管理ユーティリティの簡単な説明と、使いやすくするために簡単な使用例を示します。

ユーティリティ	説明/使用例
ECHOID ユーティリティ echoid.exe	コンピュータのロッキング・コードを生成します。お使いのマシンから、特定のコンピュータのライセンス・キー生成に使う情報(ロッキング・コード)を取得します。

ユーティリティ	説明/使用例
IPXECHO ユーティリティ  ipxecho.exe	コンピュータが動作しているネットワークの IPX アドレスを表示します。ライセンス・サーバの IPX アドレスを調べるのに使用します。
LSDECODE ユーティリティ  lsdecode.exe	<p>ライセンス・キー情報が表示され、正しいライセンスの種類をインストールしようとしているかどうかを確認できます。</p> <p>HP Functional Testing のコンカレント・ライセンス・キー (lservnc) をデコードし、ライセンスの種類やコンカレント・ユーザ数の上限などのライセンス情報を取得します。</p> <p>サーバ・ユーティリティのアプリケーション (SrvUtils.exe) と LSDECODE ユーティリティ (lsdecode.exe) が lservnc ファイルと同じディレクトリにあることを確認します。</p>
LSLIC ユーティリティ  lslic.exe	<p>ライセンス・キーを追加または削除します。次のコマンド・ライン・オプションを使用することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• -a (追加) -f (ファイル名): ライセンス・ファイルからライセンス・キーを追加</li> <li>• -removeall: HP Functional Testing Concurrent License Server からすべてのライセンスを削除</li> </ul> <p>LSHOST 環境変数を使ってライセンス・サーバを指定するか、サーバ・ユーティリティのアプリケーション (SrvUtils.exe) と LSLIC ユーティリティ (lslic.exe) が lservnc ファイルと同じディレクトリにあることを確認します。</p>
LSMON ユーティリティ  lsmon.exe	<p>HP Functional Testing Concurrent License Server コンピュータを監視します。</p> <p>LSMON ユーティリティは、(UFT を実行し、コンカレント・ライセンス・サーバに接続されている) クライアント・コンピュータまたはホスト・コンピュータ (ライセンス・サーバ) で実行できます。</p> <p>リモートの HP Functional Testing Concurrent License Server を監視するには、&lt;ホスト名&gt; または &lt;IP アドレス&gt; を指定します。たとえば、c:\lsmon.exe saturn と指定すると、ホスト saturn が監視されます。詳細については、「<a href="#">現在の Concurrent License Server のユーザ</a>」(26ページ) を参照してください。</p>

ユーティリティ	説明/使用例
LSRVDOWN ユーティリティ  lsrsvdown.exe	<p>ライセンス・サーバをシャットダウンします。</p> <p>このユーティリティのコマンド・ライン・オプションとして、ライセンス・サーバのホスト名を指定します。</p> <p>また、サービスを停止することでライセンス・サーバをシャットダウンすることもできます。詳細については、「<a href="#">Concurrent License Server の停止と再起動</a>」(16ページ)を参照してください。</p>
LSUSAGE ユーティリティ  lsusage.exe	<p>ライセンス・サーバが生成する、使用情報が表示されます。ライセンス・サーバは発行されたものも拒否されたものも、すべてのライセンス・キーのログを記録しますが、ライセンス・キーの更新は記録しません。</p> <div style="background-color: #f0f0f0; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>例</b></p> <pre>lsusage.exe -l Usage-log-file [-c CSV-Format-New-log-file] [-f Feature-Name1,Version:Feature-Name2,Version ...] [-y Start-Year(YYYY) [-m Start-Month(MM) [-a Start-Day(DD)]]] [-Y End-Year(YYYY) [-M End-Month(MM)] [-A End-Day(DD)]]]</pre> </div>
LSWHERE ユーティリティ  lswhere.exe	<p>ネットワーク上で HP Functional Testing Concurrent License Servers を探し、ライセンス・サーバを実行しているすべてのコンピュータの名前を表示します。このユーティリティは、(UFT を実行し、コンカレント・ライセンス・サーバに接続されている) クライアント・コンピュータまたはホスト・コンピュータ (ライセンス・サーバ) で実行できます。&lt;IP アドレス&gt; パラメータは特定のネットワーク・ホストを探します。</p> <p>詳細については、「<a href="#">ライセンス・サーバの表示</a>」(26ページ)を参照してください。</p>
SLMDEMO ユーティリティ  slmdemo.exe	<p>ライセンスを使用するシミュレーションを実行します。このユーティリティは、ライセンスを特定のサーバに「追加」、または特定のサーバから「削除」でき、ログ・ファイルを作ることができます。このユーティリティを使って、ライセンス・キーがライセンス・サーバ・ホストに正しくインストールされ、コンカレント・ライセンスの数が正しいかどうかを確認できます。</p>

ユーティリティ	説明/使用例
WLMADMIN ユーティリティ WLMAdmin.exe	<p>HP Functional Testing Concurrent License Server のトランザクションを監視し、ライセンス・サーバ、ユーザの情報のほか、コンカレント・ライセンス・サーバを使って UFT を実行しているコンピュータに関する情報を提供します。このユーティリティを使って、HP Functional Testing Concurrent License Server が動作していることを確認し、その使用状況を監視することができます。</p> <p>詳細については、「<a href="#">ライセンス・サーバの監視</a>」(26ページ)を参照してください。</p>
WLSGRMGR ユーティリティ Wlsgrmgr.exe	<p>特定のネットワーク・ユーザまたはコンピュータのライセンス・トークンを保持する予約ファイルの簡単な作成方法を提供したり、特定のユーザまたはコンピュータによるライセンス・トークンの使用を排除したりします。</p>
WCommute.exe	<p>コンカレント・ライセンス・ユーザが、ローカル・コンピュータまたはリモート・コンピュータで UFT のコムーター・ライセンスをチェックアウトおよびチェックインできるようにします。コムーター・ライセンスを使用すれば、ネットワークから一時的に切断されているコンピュータでコンカレント・ライセンス・ユーザが UFT を一時的に使用できるようになります。</p> <p>詳細については、『HP Unified Functional Testing インストール・ガイド』を参照してください。</p> <p>このユーティリティはコマンド・ラインでのみ有効化できます。[サーバユーティリティツール] ウィンドウでは有効化できません。</p>
WRCommute.exe	<p>Concurrent License Server または Service Test のコムーター・ライセンスを取得およびインストールするのに使用できる、リモート・コンピュータのロッキング・コードをコンカレント・ライセンス・ユーザが生成できるようにします。</p> <p>詳細については、『HP Unified Functional Testing インストール・ガイド』を参照してください。</p> <p>このユーティリティはコマンド・ラインでのみ有効化できます。[サーバユーティリティツール] ウィンドウでは有効化できません。</p>

次の表では、使用できるコンカレント・ライセンス・サーバを指定または制御するために UFT または Service Test クライアント・コンピュータで使用されている変数について説明します。

ユーティリティ	説明/使用例
LSFORCEHOST 変数	UFT クライアントを特定のコンカレント・ライセンス・サーバに限定します (ライセンス・サーバの指定にはホスト名または IP アドレスを使用できます)。この変数の設定の詳細については、「 <a href="#">LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定</a> 」(27ページ)を参照してください。
LSHOST 変数	UFT クライアントにおいて優先するコンカレント・ライセンス・サーバを指定します。指定したコンカレント・ライセンス・サーバが見つからない場合は、ネットワーク全体が検索されます。リモート・サブネットにあるサーバに接続するには、この変数を使います。この変数の設定の詳細については、「 <a href="#">LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定</a> 」(27ページ)を参照してください。

## 現在の Concurrent License Server のユーザ

LSMON ユーティリティは、(UFT を実行し)コンカレント・ライセンス・サーバまたはホスト・コンピュータ (コンカレント・ライセンス・サーバ) に接続されているクライアント・コンピュータで実行できます。

LSMON ユーティリティは DOS ベースのプログラムで、次のものを表示します。

- UFT のコンカレント・ユーザの上限
- 現在コンカレント・ライセンス・サーバに接続されているコンピュータの数
- 現在コンカレント・ライセンス・サーバに接続されているコンピュータの ID
- 現在使用されていないライセンスの数

注: クライアント・コンピュータから LSMON ユーティリティを実行してネットワーク上のすべてのコンピュータの情報を表示するには、LSMON<ライセンス・サーバのホスト名>を入力します。

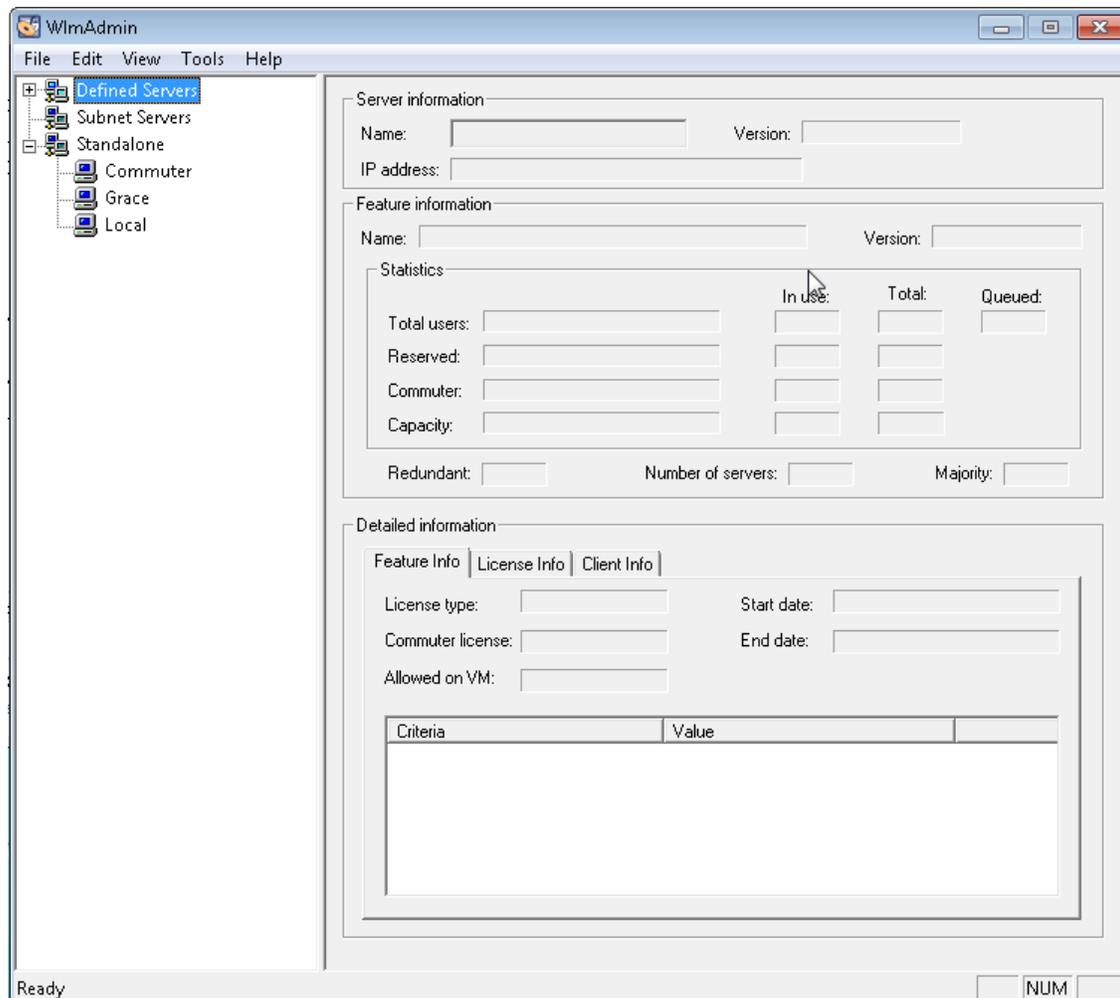
## ライセンス・サーバの表示

LSWHERE ユーティリティは、(UFT を実行し)コンカレント・ライセンス・サーバまたはホスト・コンピュータ (コンカレント・ライセンス・サーバ) に接続されているクライアント・コンピュータで実行できます。このユーティリティは Windows ベースのプログラムで、HP Functional Testing Concurrent License Server を実行しているすべてのコンピュータのネットワーク名を表示します。

## ライセンス・サーバの監視

WLMADMIN ユーティリティは、(UFT を実行し)コンカレント・ライセンス・サーバまたはホスト・コンピュータ (コンカレント・ライセンス・サーバ) に接続されているクライアント・コンピュータで実行できます。この

ユーティリティは、サーバに接続している各 HP 製品によるライセンス・サーバ・トランザクションの監視を可能にし、ライセンス・サーバ、ユーザの情報のほか、コンカレント・ライセンスを使って HP 製品を実行しているコンピュータに関する情報を提供します。このユーティリティを使って、ライセンス・サーバの動作を監視できます。



#### 注:

- [Feature name] (ライセンス) は、サポートの対象となる最も古いバージョンを示します。たとえば、**QuickPro 6.0** は QuickTest Professional のバージョン 6.0 以降をサポートしています。
- 各種タイプのライセンスが含まれるプールからライセンスを割り当てる場合、最も包括的なライセンスがライセンス・サーバによって選択されます。

## LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定

ライセンス・ウィザードを使用して UFT の接続先となるコンカレント・ライセンス・サーバを指定する以外に、Windows の環境変数を使用してコンカレント・ライセンス・サーバを指定することもできます。

たとえば、LSHOST 変数を使用して、UFT クライアントの接続先にしたいコンカレント・ライセンス・サーバを設定できます。指定したコンカレント・ライセンス・サーバがローカル・サブネットに見つからない場合は、ネットワーク全体が検索されます。

LSFORCEHOST 変数を使用して、UFT を特定のコンカレント・ライセンス・サーバに制限できます。LSHOST 変数およびLSFORCEHOST 変数については、[26 ページ](#)を参照してください。

HP Functional Testing Concurrent License Server が UFT クライアントとは異なるドメインあるいはサブネットにインストールされている場合は、「[既知の問題とその解決法](#)」(17ページ)の説明に従って、LSHOST 変数またはLSFORCEHOST 変数を設定する必要があることがあります。

詳細については、「[トラブルシューティングと制限事項 - LSHOST および LSFORCEHOST 変数の使用](#)」(30ページ)を参照してください。

**注:**

- ライセンス・ウィザードを使用してコンカレント・ライセンスを有効化し、サーバ名を1つ指定すると、LSFORCEHOST ユーザ変数が指定したコンカレント・ライセンス・サーバに既に定義されています。
- LSFORCEHOST 変数は、指定したサーバ名でのみ使用可能なライセンスを検査するように指示します。複数のサーバで使用可能なライセンスを検査するには、LSHOST 変数を設定する必要があります。

**LSHOST または LSFORCEHOST 変数を設定するには、次の手順を実行します。**

1. [環境変数]ダイアログ・ボックスを開きます ([コントロールパネル] > [システム] > [詳細設定] > [環境変数] ボタン (Windows 7 または Vista) を選択するか、[コントロールパネル] > [システム] > [詳細] タブ > [環境変数] ボタン (Windows XP) を選択します。[環境変数]ダイアログ・ボックスが開きます)。



**注:** 既に LSHOST システム変数または LSFORCEHOST システム変数を使用してコンカレント・ライセンス・サーバが定義されている場合は、ユーザ変数を使用して定義する必要はありません。

2. [ <ユーザ名> のユーザー環境変数 ] リストの下にある [ 新規 ] をクリックします。[ 新しいユーザー変数 ] ダイアログ・ボックスが開きます。
3. [ 変数名 ] ボックスに、「LSHOST」または「LSFORCEHOST」と入力します。
4. [ 変数値 ] ボックスに、コンカレント・ライセンス・サーバの正式名称を入力します。または、ホスト・コンピュータの IP アドレスを入力しても構いません。

**注:**

- LSHOST 環境変数と LSFORCEHOST 環境変数は最大 64 文字に制限されています。
- **LSHOST 変数:** ホスト名が複数ある (たとえば 1 つのネットワーク上で複数の HP Functional Testing Concurrent License Server を運用している) 場合には、セミコロン (;) を使って [ 変数値 ] ボックスの中のホスト名または IP アドレスを区切ります。

5. [OK]をクリックして, [新しいユーザー変数]ダイアログ・ボックスを閉じます。
6. [OK]をクリックして[環境変数]ダイアログ・ボックスを閉じます。
7. [OK]をクリックして[システムのプロパティ]ダイアログ・ボックスを閉じます。

## トラブルシューティングと制限事項 - LSHOST および LSFORCEHOST 変数の使用

UFT を新規インストールする場合, ライセンス・ウィザードでコンカレント・ライセンス・サーバを1つ指定すると, UFT は, パフォーマンスを最適化する目的で, このサーバを LSFORCEHOST 環境変数に自動的に定義します。ただし, QuickTest または Service Test からアップグレードする時点で LSHOST 変数が既に定義されている場合, アップグレードのインストール手順では LSFORCEHOST の設定は変更されません。

**回避策:** 必要に応じて, LSFORCEHOST 変数を手動で設定します ([「LSHOST 変数または LSFORCEHOST 変数の設定」\(27ページ\)](#)を参照)。

## 第6章: Concurrent License Server のアンインストール

コンカレント・ライセンス・サーバは、必要に応じてアンインストールできます。

コンカレント・ライセンス・サーバをアンインストールすると、このサーバのコンカレント・ライセンスを使用しているコンピュータは、UFT クライアントを実行できなくなります。UFT クライアントを実行するには、コンピュータにそれぞれシート・ライセンスをインストールするか、別のコンカレント・ライセンス・サーバにアクセスするようにコンピュータを設定する必要があります。シート・ライセンスへのコンカレント・ライセンスの変更に関する詳細については、『HP Unified Functional Testing インストール・ガイド』を参照してください。

ライセンス・サーバをアンインストールし、別のコンピュータに再インストールする場合は、HP ソフトウェア・サポートに連絡して、サーバの新しいインストール先となるコンピュータのロッキング・コードに対応する新しいライセンス・キーを取得します。コンカレント・ライセンス・キーの申請の詳細については、「[コンカレント・ライセンス・キーの申請](#)」(9ページ)を参照してください。

コンカレント・ライセンス・サーバをアンインストールするには、次の手順を実行します。

1. lservrc ファイルのバックアップを保存します。lservrc ファイルの場所は、製品が現在インストールされているかどうかに応じて異なります。
  - 製品がインストールされている場合、ファイルの場所は **lservrc** 環境変数によって指定されます。

**ヒント:** lservrc 環境変数のパスを確認するには、[マイ コンピュータ]を右クリックして[プロパティ]を選択します。[システムのプロパティ]ダイアログ・ボックスで[詳細設定]タブを選択して、[環境変数]をクリックします。LSERVRC 変数の[環境変数]ウィンドウの[<ユーザ>のユーザ環境変数]ボックスにパスが表示されます。

例: %CommonProgramFiles%\HP\License Manager\lservrc

- 製品がインストールされていない場合、このファイルは lservnt.exe と同じフォルダに存在しません。標準設定では、%CommonProgramFiles%\SafeNet Sentinel\ RMS License Manager Server\WinNT\ です。

**ヒント:** lservnt.exe の場所を確認するには、[スタート]>[設定]>[コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。[サービス]ダイアログ・ボックスで[Sentinel RMS License Manager]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。[実行ファイルのパス]ボックスに **lservnt.exe** のパスが表示されます。

2. [スタート]>[設定]>[コントロールパネル]>[アプリケーションの追加と削除]をクリックします。  
[アプリケーションの追加と削除]ダイアログ・ボックスが開きます。
3. [Sentinel RMS License Manager 8.x.x]または[Sentinel LM Server 8.x]を選択し、[削除]

をクリックします。

4. 画面に表示される手順に従います。

**注:** コンカレント・ライセンス・サーバのアンインストールは、UFT インストールDVD の LicenseServer フォルダにある **autorun.exe** ファイルを使用して行うこともできます。DVD は、ほかのバージョンのライセンス・サーバのアンインストールには使用しないでください。予想外の動作を引き起こす可能性があります。

## Windows 8 オペレーティングシステムでの Concurrent License Server へのアクセス

**注:** 標準設定では、Windows 8 の[スタート]画面と[アプリ]画面は、Internet Explorer をメトロ・モードで開くように設定されています。ただし、コンピュータのユーザー・アカウント制御がオフになっている場合、Windows 8 は Internet Explorer をメトロ・モードで開きません。このため、[スタート]または[アプリ]画面から HTML ショートカット (ヘルプや Readme ファイルなど)を開こうとすると、エラーが表示されます。

この問題を解決するには、Internet Explorer の標準設定の動作を変更して、メトロ・モードで開かないようにできます。[インターネットのプロパティ]ダイアログ・ボックス > [プログラム]タブで、[リンクの開き方を選択]オプションの[デスクトップ上には常に Internet Explorer を表示]を選択します。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/2736601> および <http://blogs.msdn.com/b/ie/archive/2012/03/26/launch-options-for-internet-explorer-10-on-windows-8.aspx>を参照してください。

# お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チーム](#)までご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

## **Feedback on インストールガイド (Functional Testing Concurrent License Server 12.01)**

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、sw-doc@hp.com宛にお送りください。

